

令和6年度 第1回 みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会 審議概要

日 時：令和6年11月11日(月) 10:00～12:00

場 所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席委員：10名 高橋委員長、川島副委員長、市来委員、伊藤委員、大角委員、
蒲委員、デュアー委員、田代委員、出村委員、松枝委員
(欠席委員：3名 岩佐委員、北村委員、鈴木委員)

傍 聴 者：なし

<議事概要>

① 今年度の運営状況と今後の予定について

(委員からの意見)

- ・他の部署等で関わってくれる人材、メディアコスモスとその周辺のいろいろなサポートネットワークがもう少し働いてくれるように考えなければいけない。システムティックに回せるところはシステムティックに回しながらも、対面でやらなければいけない所を手厚くしていく、そういったシステムの構築が必要。
- ・メディコスに対するサポートネットワークの構築も必要だが、一方で、メディコスで育ててきた編集力や、キュレーション力を、他の政策分野にも展開できるという。
- ・岐阜市のシビックプライドを10年育ててきたので、そのシビックプライドを使って地域ブランドも作っていけるよう、公共施設の豊かなあり方作りや、市民の参画のあり方作りといったことを学べるような場所にメディコスになるといい。
- ・今後よりデジタル化を進めたときに、電子図書館などのデジタル領域がもう少しうまく回っていくといい。
- ・岐阜市を代表する素晴らしい文化事業に育ちつつあるので、これをいかに定着させるか、維持していくのが重要。現在のコンテンツをしっかりと踏み固め、その中で効率化できる部分を探しながら、次のプラスアルファを模索していく必要がある。
- ・街中の本屋との連携について、大規模一般書店や古本などを扱う町の独自性のある本屋をどのように守り、保持していくのかは、非常に重要なテーマ。その中で図書館・メディアコスモスが中核になり、本屋がどうあるべきか、あるいは行政的にどう手当していくかを議論するべき。
- ・図書館と書店の連携については、今後、議題として掲げていくべき。
- ・アンケートについて、「満足幸福度」のような項目を追加すると、イベント参加者の幸福度が明確に見えてくるし、その結果がイベント開催する側の励みにもなるのではないか。
- ・休日にメディコスを訪れると、非常に混雑している。今後よりメディコスへの来館者数が増えていく中で、路上駐車などによる交通の妨げなどにより一層、目を配る必要がある。来館者に楽しく来ていただける環境づくりも課題。

② 開館 10 周年記念事業について

(委員からの意見)

- ・「これは未来にもちゃんと受け継ぎたいものだ。その中からどういう発展がある。」という、メディコスとして変わらないものは何だろうっていう部分の、何か力強いアイデンティティの部分をちゃんとコンセプトブックの中で伝えてほしい。
- ・限られたページ数の中で資料集的な内容にしすぎるのもよくないが、今まで積み重ねてきたものすべてがメディコスの歴史であり財産なので、これをどのようにアピールしていくのかが鍵だと思う。
- ・メディコスの元々コンセプトというか、伊東豊雄さんが設計を通して伝えたかった思いが読者に伝えられる内容だと良いと思う。メディコスは人の心を癒してくれる何かがあるので、そういった誰かの居場所になれる場所というのを伝えたい。
- ・未来から始まって未来で締めくくるという流れが非常に素敵。
- ・市民参加型のワークショップで得た内容が反映されるとのことだが、ワークショップに行きたくても行けないような外出困難な人や障害を抱えた人の声もコンセプトブックの中で届けられるといい。
- ・過去から現在のセクションの中に「まちとつながる地図」があるが、これも未来のセクションに被る想像がしていてここの住み分けをどう工夫するのか。
- ・市民が参加できるメディコスの活動の紹介が過去から現在のセクションに組み込まれているが、市民活動について、団体も増えて仲間が増えてきたと実感している中で、今後どのように団体が発展していく・方向性を持っていくのか、そういった未来性も組み込めたらいい。
- ・市民活動の紹介の部分について、QRコードを用いることでより詳細なところまで各団体にフォーカスすることができると思う。
- ・メディコスがこれだけ多くの方に愛されているのはいわば、ただの図書館を目指していなかったからだと思う。図書館を超える、何らかの形で時代やトレンドに反抗しているからこそ愛されていると思うので、それを言語化してコンセプトブックの中に組み込まれると非常に良いなと感じる。